

創刊の辞

国際学部長

小田 英郎*

1997年4月に新設された敬愛大学国際学部（国際協力量科）の機関誌『敬愛大学国際研究』の創刊号が、ここに刊行の運びとなった。教員スタッフがそろい、学生が入学し、教育・研究活動が開始されても、それに加えて教員スタッフの研究成果を世に問う紀要の刊行がなければ、大学学部としてはその機能が十分に働き始めたとはいえない。その意味では、本誌の創刊は、国際学部が本格的な第一歩を踏み出し終えた証しなのである。

敬愛大学国際学部は千葉敬愛短期大学国際教養科の改組転換（四大化）によって生まれた学部であるが、『敬愛大学国際研究』は、たんに同短大の機関誌『国際教養学論集』を継承・発展させたものというわけではない。それは、広領域学としての国際学・国際協力量科の発展をも視野に入れた、そしてまた（大学の紀要としての性格上当然のことであるが）学生諸君の学習に直接・間接に資することをも目指した、新たな学術誌なのである。

本号は本学部専任教員の執筆になる10編の論文を収録した、創

* おだ・ひでお Hideo ODA : Dean, Faculty of International Studies.

刊号にふさわしい大部のものになっているが、今後とも年間2回の刊行を目指して、なお一層の充実を心掛けたいと思う。

なお、本誌の創刊に先立って、千葉敬愛短大の紀要『国際教養学論集』の刊行（過去6回）はその幕を閉じることとなった。これにともなって、この創刊号は短大国際教養科の最後の卒業生（1998年3月卒業）と国際学部第一期生（1997年4月入学）の双方に配布される措置がとられるが、その結果本号は、短期大学から四年制大学への改組転換の、記念碑的な意味をもつことにもなったわけである。

最後に、編集面についていえば、本誌は創刊号ということであえて論文だけを掲載したが、今後刊行される通常号は、たとえば研究ノート、資料、書評その他を含めた、バラエティに富んだ構成になるはずである。

新しく誕生した『敬愛大学国際研究』が本学の内外で広く読まれ、国際学・国際協力学および関連学問分野の発展に貢献することができるよう願ってやまない。

1998年1月